

注目を浴びた2013年北米ハンドメイド自転車展

－当協会で日本の関連企業向けに出展支援を実施－

平成25年2月22日～24日の3日間、今回で第9回目となる北米ハンドメイド自転車展が米国コロラド州デンバーにあるコロラドコンベンションセンターを使用して開催された。この展示会はハンドメイド自転車製品だけに焦点が絞られた展示会で、出展参加にあたって各企業は主催者側の事前承諾が必要である。その為、高級自転車製品の展示が中心であり、日本の自転車業界からも注目されている展示会である。

当協会ではこの展示会のこのような背景から、国内のフレームビルダーや関連部品製造企業に対し、出展の機会が得られるよう出展支援の募集を行った。この結果、フレームビルダー4社及び部品製造企業6社の計10社から応募があり、これら全ての企業の出展が認められた上、これら10社及び当協会に対しまとまったアイランドブースが割り当てられ、日本企業のグループ出展の形態となることができた。これら10社の展示品はどれも素晴らしいものであり、来場者の大きな注目を受け、特に株式会社マツダ自転車工場製の自転車は最優秀トラックバイク(Best Track Bike)賞と最優秀主催者賞(President's Choice)の2つを同時受賞し、最終日に松田社長にトロフィーが授与された。

今回の展示会は、米国及び日本を含む五カ国から200社と過去最高の出展企業数を集めた。また来場者数は6,200名を数え、主催者側の7,000名の予測には届かなかったが、これは最終日24日の天候が吹雪であったためであり、悪天候の割には盛況であった。

更にこの展示会は小規模のフレームビルダーが新しいカテゴリーの製品を展示してくる場所として米国自転車業界の中でも注目されている。今年の傾向としては、オフロードでの使用を前提とした幅広タイヤを装着した自転車の増加、フレーム素材としてスチールの若干の増加・回帰が指摘された。

展示会の概要

展示会の名称：2013 北米ハンドメイド自転車展 (2013 North American Handmade Bicycle Show, 2013NAHBS)

会 期：平成25年2月22日～24日

会 場：米国コロラド州デンバー市 コロラドコンベンションセンター Dホール

出展者数：200社 (海外からは我が国以外に英国、イタリア、カナダ及びチェコから出展)

入場者数：6,200人(昨年は8,100人)

1. 展示会場全体の様子

日本で「ハンドメイド自転車」と言えば、クロモリ製のロードバイクやシングルスピード等の競技用自転車を想像する人が多いと思われる。実際に毎年東京の科学技術館で開催されているハンドメイドバイシクル展では圧倒的にその様な競技用自転車が出展の大半を占めている。そんな中、今回の北米ハンドメイド自転車展では、ロードバイクやMTBといった決められた自転車の枠に囚われない“楽しく走ること”を第一に考えた自転車の展示が多かった。

会場では 29er を履かせたオフロードバイクの展示が多くあり、その中でも沢山の荷物を搭載できるキャリアや太めのタイヤ、大径口ホイールに様々な小物を搭載できる工夫が施された遊び心溢れるツーリングバイクやアドベンチャーバイクの展示が多く見られた。そして CFRP やアルミ等の非鉄金属素材よりも、クロモリやスチール等鉄製フレームの自転車が多く見られたほか、竹や木等の自然素材を加工してフレームやホイールを製作しているところもあり、出展者同士で製作方法やポイント等の情報交換を行っている姿も見られた。

また、ベルトドライブ駆動の自転車も多くみられ、シティバイク以外にもロードバイクやオフロードバイク等に装着した多種多様なベルトドライブ自転車の展示があった。



会場内の様子

2. 来場者について

初日の午前9時から11時まではメディア及び業界関係者のみに開放されたが、午前11時以降及び2日目、3日目は広く自転車愛好家・一般ユーザー・消費者等に開放された。この展示会は入場料を払えば誰でも参観できる展示会である。また開催都市の特徴からか、来場者の方々も友好的、好意的な方が多く、ビジネスショーとは違った穏やかな雰囲気を感じる事もできた。中には小さな子供を連れた来場者が馴染みのビルダーの出展するブースで談笑する場面も見られ、出展者と来場者の距離の近さを感じることができた。一番多くの来場者数を記録した23日は、開場前から入口に50～60人くらいの列が出来ており、会場内もすれ違いが困難なくらいの多くの来場者で混みあっていた。逆に最終日は吹雪による生憎の悪天候で開場前も10人足らずしか並んでおらず展示会場内も空いていた。ゆえに余裕を持って出展者を見学し、説明を受けることができた。



開場を待つ人々の行列

3. 当協会の出展支援業務及び日本企業のグループ出展について

主催者側からは数年前から日本のハンドメイド自転車及び関連部品製造企業の出展勧誘が当協会に対してあった。しかし、積極的にこの展示会に出展してみたいという声はなかなか当協会へ届かなかったところ、昨年秋になり、この展示会にも出展してみたいという声は我が国自転車部品製造企業の中から持ち上がったため、当協会としては高級自転車製品の対米輸出促進のため、出展支援を行う事となった。支援内容としては、出展支援の募集、前述の通りこの展示会の出展にあたっては主催者側の承諾が必要なため、その承諾の取り付け、小間位置の調整、入場者登録、備品・電気の申込代行、各種費用の支払い代行、出展規則の周知徹底等を行った。尚、各種費用は全額出展支援応募企業の負担によるもので、当協会からの補助金は一切含まれていない。

出展支援申請企業はフレームビルダー4社、部品製造企業6社となり、勿論これら全ての企業の出展が主催者側から認められ、併せて小間の位置も10社及び当協会に対してまとまったアイランドブースが割り当てられ、日本企業のグループ出展の形態となった。

主催者側からは日本から多くの企業が出展参加したことにより展示会全体に盛り上がりをもたらしてくれたとして感謝の気持ちが伝えられた事に加え、日本グループについて、完成車及び各種部品のバランスが良く、展示会全体の出展製品構成にも良い影響を与えてくれているという評価の声があった。

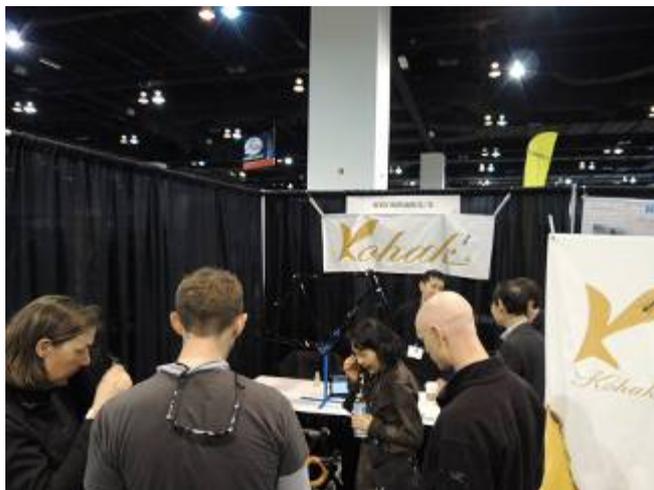
2013北米ハンドメイド自転車展 当協会出展支援実施企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所	電話 F A X	主な出品物
株式会社バイシクルわたなべ Bicycle Watanabe Co., Ltd.	〒422-8006 静岡市駿河区曲金 7-8-35	054-285-8845 054-285-9740	完成車
株式会社マツダ自転車工場 Matsuda Cycle Factory Co., Ltd.	〒116-0012 東京都荒川区東尾久 1-2-4	03-5692-6531 03-5692-6532	完成車
サノマジック sanomagic	〒136-0082 東京都江東区新木場 1-6-12	03-5569-6567 03-5569-6567	完成車 ホイール
絹自転車製作所 Silk Cycles	〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡 1-10-1	049-267-5089 049-267-5089	完成車
株式会社 ヨシガイ DIA-COMPE JAPAN	〒571-0008 大阪府門真市東江端町 7-25	072-884-8020 072-884-8030	ブレーキ、ヘッドセット等
株式会社 本所工研 Honjo Koken	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	フェンダー
株式会社 加島サドル製作所 Kashima Saddle Mfg. Co., Ltd.	〒580-0014 大阪府松原市岡 1-116	072-333-3594 072-333-1973	サドル
株式会社 三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 埼玉県所沢市糞谷 1738	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
日工産業 株式会社 Nikko Sangyo Co., Ltd.	〒125-0063 東京都葛飾区白鳥 4-14-23	03-3601-4166 03-3690-7616	ラグ
株式会社 日東 Nitto Co., Ltd.	〒334-0013 埼玉県川口市南鳩ヶ谷 3-23-7	048-286-7771 048-286-7770	ハンドル、シートポスト等

これだけ多くの日本企業が当展示会に出展したのは今回が初めてで、各ブースにはカメラ片手に多くの来場者が訪れていた。そんな中でも2つの賞を受賞したマツダ自転車工場のオリジナルフレーム“LEVEL”には多くの関心が寄せられ、初日から多くの見物客が訪れていた。アメリカにおけるNJS登録製品及び競輪人気の高さが伺えた。主催者のドン・ウォーカー氏は、この自転車はまさに最優秀トラックバイク賞に値するもので、特に白いフレームでこのように美しい自転車を製作された事に大いに敬意を表すと述べている。

またワシントン条約により今では入手が困難とされるマホガニー材を使ったオリジナル自転車を作るサノマジックのブースにも多くの見物客が訪れ、フレーム、ホイールからハブ、バルブキャップやボトルゲージ、フィキシングボルトのキャップと細部に至るまでマホガニー材で精巧に作られた製品の制作方法や価格、乗り心地などを熱心に質問しており、閉館後は保安スタッフまでもが見物に訪れる程の人気振りだった。他に完成車ではツーリングバイクを展示した絹自転車製作所の“シルク”や、新ブランドを立ち上げたばかりのバイシクルわたなべの“琥珀”が出展。日本のハ

ンドメイドフレームの技術力の高さに多くの来場者の興味が集まっていた。



株式会社バイシクルわたなべ



株式会社マツダ自転車工場



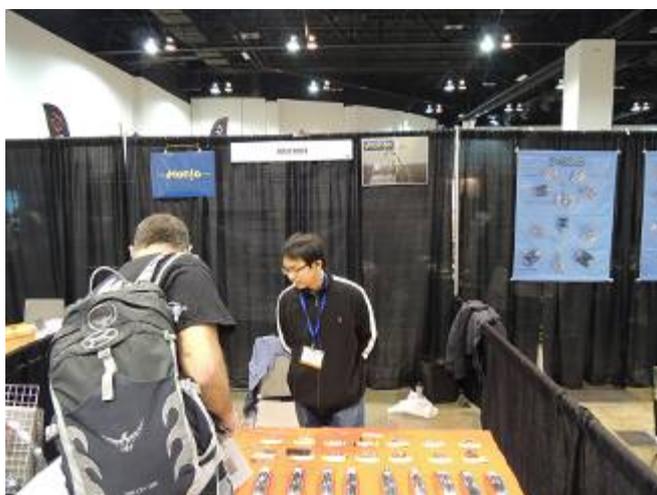
サノマジック



絹自転車製作所



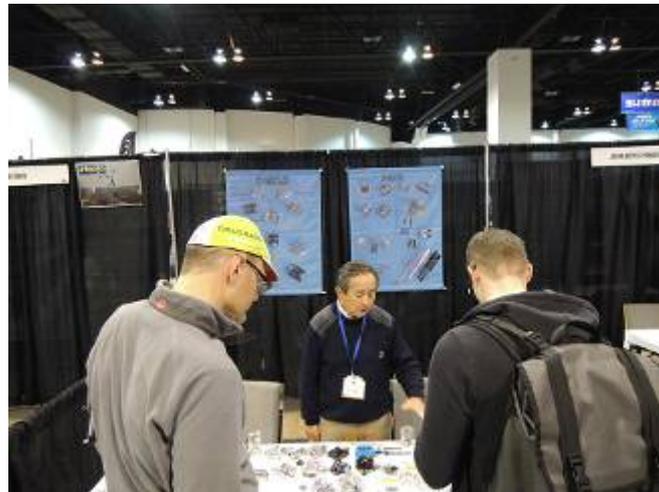
株式会社ヨシガイ



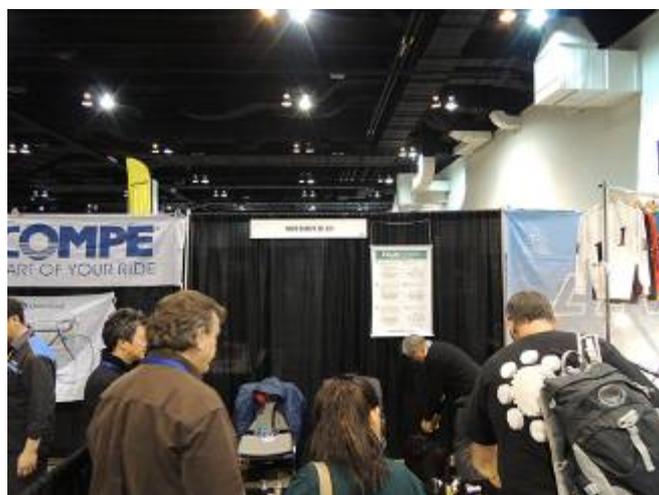
株式会社本所工研



株式会社加島サドル製作所



株式会社三ヶ島製作所



日工産業株式会社



株式会社日東

尚、当協会の出展支援を受けず独自に参加した企業として、ケルビムブランドの有限会社今野製作所が完成車を出展、同社の自転車は最優秀シティバイク(Best City Bike)賞を受賞した他、GOKISOブランドの株式会社近藤機械製作所がハブ等高級部品を出展。同社の小間は日本グループの通路を挟んだ反対側で一体感があった他、京都の Weld One がチタンとカーボンを融合させた独創的な自転車を出展して来場者から多くの絶賛を受けていた。また株式会社シマノは Shimano American がこの展示会のスポンサーの一つとなっていた。

4. 完成車以外の展示

完成車以外の展示では、大手メーカーのホイールやコンポーネント、Tシャツやサイクルキャップ等のアパレル用品、様々なパイプを展示した鉄素材、美しいラグやエンド等のサイクルパーツ、メンテナンススタンドや工具等の整備用具からフレームの設計ソフトまで、様々な自転車関連製品が展示されていた。そんな中、ヘッドパーツの大手企業“クリスキング”のブースには多くの来場者が訪れていた。このブースではオリジナルブランド“シエロ”のフレーム展示の他、代表のクリスキング自らヘッドパーツの整備について実演講義を行っており、多くの来場者が聞き入っていた。



美しい自転車パーツ



ヘッドパーツの整備実演

5. 各賞の受賞について

- **Best Of Show : English Cycles**

細身のクロモリパイプを使った非常に美しいシルエットを持つタイムトライアルバイク。

- **President's Choice 及び Best Track Bike : マツダ自転車工場 (LEVEL)**

純白のクロモリで組んだ正当派ピストバイク。日本の高い技術力に多くの称賛が集まった。

- **Best new builder : Avery County cycles**

今回展示が多かったシクロクロスバイクで、個性豊かなニュービルダー達の中から見事受賞。

- **Best Theme Bike 及び People's Choice : Moots**

主流になりつつある 29er に極太タイヤを履かせたアドベンチャーバイクが二重受賞。

- **Best finish : Winter Bicycles**

スタッガードタイプのフレーム形状に、磨き込まれた美しい光沢を持つシティバイク。



Winter Bicycles



Moots



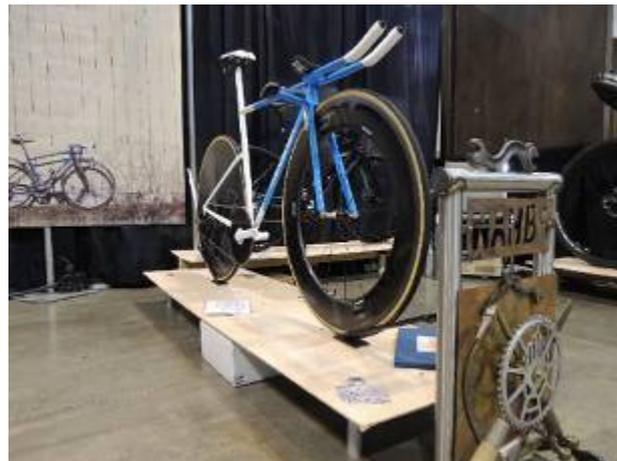
Avery County Cycles



マツダ自転車工場 (LEVEL)



English Cycles



English Cycles 製の最優秀賞受賞バイク

- **Best Carbon Construction : Alchemy Bicycle Company**
- **Best Road Bike : Bishop Bikes**
- **Best Lugged Frame : Bilenky Cycle Works**

- **Best Alternative Material : Boo Bicycles**
- **Best City Bike : Cherubim by Shin-Ichi Konno**
- **Best Mountain Bike : Retrotec-Inglis Cycles**
- **Best Cyclocross Bike : Mosaic Cycles**
- **Best Titanium Construction : Kent Eriksen 及び Black Sheep**
- **Best Tandem Bike : Calfee Design 及び Black Sheep**
- **Best Tig Frame : Steve Potts Bicycles**

6. 次回の北米ハンドメイド自転車展について

第 10 回目となる次回の北米ハンドメイド自転車展は 2014 年 3 月初旬にノースカロライナ州シャーロットで開催される事が発表された。

以 上